

第5学年 国語科学習指導案

日 時：令和7年11月19日（水）

第5校時 13:15～14:00

学 級：5年1組27名

会 場：5年1組教室

指導者：尾久第六小学校 5年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
～国語科「読むこと(文学的文章)」を通して～

1. 単元名 物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう

教材名「たずねびと」 朽木 祥作

2. 単元の目標

知識及び技能	・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。 (知(1)オ)
思考力、判断力、表現力等	・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思C(1)エ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 (思C(1)オ)
学びに向かう力、人間性等	・粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合うことができる。

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	①進んで学習計画を立て、学習の見通しをもって作品を読もうとしている。 ②粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

4. 児童の実態

本学級は、男子15名、女子12名、計27名の学級である。日常的に国語科の学習に意欲的に取り組み、物語文の読み取りでは、叙述を根拠にしながら内容を読み深められる児童が多い。今年4月に行われた荒川区実施の標準学力調査では、「物語の内容を読み取る」という項目で、学級平均正答率は82.7%であり、目標値71.7%、区平均78.4%を大きく上回っていた。日々の授業実践の中で意図的に取り入れてきた、目的意識や相手

意識を明確にした交流を通して、児童が自分の考えに自信をもてたり、友達の考えに傾聴して自身の考えを変容させたりといった日々の積み重ねが、本文の確かな内容理解につながっているのではないかと分析する。

前単元「銀色の裏地」では、表現に着目しながら主人公の心情の変化を捉え、考えを伝え合う活動をした。また、登場人物の人物像について叙述を根拠にまとめる活動を経験している。本単元では、今までの学習してきた学びの視点を生かして、全体像を想像する力を身に付けさせていく。そのために、中心人物の心情の変化や、中心人物が出会う「人・もの・こと」など着目し、それらが物語においてどのような役割や効果をもつかを考えていく。また、考えの形成では、この作品を通して受け取った作者のメッセージを、児童が叙述を根拠にしながらまとめる言語活動へと発展させていく。一つの叙述でも、その捉え方は様々であり、また捉えたことを自分の言葉で表現する仕方も多岐に渡るため、児童同士の交流から新たな気づきや、より深い作品理解が生まれると考えた。作品から受け取ったメッセージを基に、未来を担う子供たちが“自分のこれからの生き方”を考えるきっかけを与えたい。

5. 単元について

本教材は、広島出身の作者が原爆投下について、主人公「綾」を通して描いた作品である。同姓同名の「楠木アヤ」という人物を広島まで訪ねていった「綾」が、そこでの様々な出会いによって、戦争や平和に対する思いを変化させていく形で物語が展開されている。「人・もの・こと」などの様々な出会いを通して、変化させていく綾の心情について、叙述を基に丁寧に読み取り、物語の全体像を豊かに想像させたい。物語の全体像を想像する学習は本単元が初めてであるため、教科書の中にある「たいせつ」などを基に確認したり、情景描写や繰り返し出てくる言葉を中心に言葉一つ一つに立ち止まることを意識したりしながら学習を進めていく。

また、本作品は自分たちと同じ11歳の「綾」の視点で描かれており、「綾」に寄り添いながら自分を重ねて読むことができる。実際の写真や広島市のマップ等も活用しながら、いかに児童が自分事として捉えていけるかを大切にしていける。

6. 研究主題に迫るための手立て

(1) 確かな知識・技能の習得

・語彙力を高める環境整備

本教材は、実際に起きた戦争が物語の背景として設定されており、歴史を学習していない児童にとって理解が難しい表現も多い。そこで、「平和記念資料館」「追悼平和祈念館」などの難解語は実際の写真を見せたり、原爆についての資料に触れたりする機会を設けることで、児童が物語の世界をより具体的に想像することができるようにする。全文を通読する中で、児童が難解だと感じた語句を挙げ、その言葉の意味を理解するためのツールとして、写真等の資料と合わせた語彙を教室掲示とし、児童が適宜活用できるようにすることで、叙述の共通理解を図る。また、意味理解が難しい語彙表現については、日常的に興味をもった言葉を書き溜めて活用している「言葉の宝箱」の冊子を活用し、意味調べをしながら理解を深めるように促す。

(2) 単元構成の工夫

・単元全体の目標の明確化

本単元では、「たずねびと」の作者である朽木祥さんに向けて、児童自身が作品から受け取ったメッセージを手紙として届けるという相手意識を明確にした言語活動を設定した。学習のゴールを単元の導入から具体的に提示することで、児童が本教材を学ぶ目的意識をもつことができると考えた。教材文から筆者のメッセージを捉えるためには、どのように学習を進めていくべきかを問うことが、学習計画を立てる際の基盤となり、児童が主体的に学びを進めることにもつながる。また、筆者のメッセージを捉える作者論と合わせて、自分はそれを受けてどう感じたのか、これからどうしていきたいかなどの読者論をまとめる活動も大切にすることで、深い教材理解を目指す。

・振り返りシートの活用

各時間学んだことは、一枚の振り返りシートにまとめ、学びの足跡を明確に記すようにする。振り返りシートは学習計画表と一体化しており、次時に何を学ぶのかも自身で意識しながら振り返りができるようにする。振り返りシートに記載した内容は、授業の終末や次時の授業の導入の際に学級全体で共有しながら、学びを深めるための手立てとして適宜活用する。また、児童が各時間の中で、主体的に学んだか、達成感をもてたかといった観点からも振り返りができるように、記号を記す欄を設ける。そうすることで、何を学んだかだけでなく、どのように学んだのか自分の感情を客観的に分析できるようにする。

(3) 学びを深めるための工夫

・考える時間の確保

本教材を学ぶ上において、原爆についての理解を深めることは必要不可欠となる。ただし、国語科の中でその学びを追究することに走りすぎると、物語の叙述から離れて戦争の恐ろしさや残酷さに感情が振れてしまうことも考えられる。そこで、総合的な学習の時間等と関連させながら、児童が興味をもった事柄について学びを追究できるような時間を確保していく。関連図書を調べたり、必要な情報はインターネットを活用して調べたりする活動を進め、教科横断的に学ぶ機会を設定することで、児童が自分の疑問に思ったことを明確にできるようにしていく。

・学習形態の工夫

作品から受け取った筆者のメッセージをまとめる際には、本文の叙述に着目し、そう考えるに至った根拠となる箇所にサイドラインを引く。自分の考えをワークシートにまとめた児童から、板書で掲示した全文シートの叙述に名前マグネットを貼る。選んだ叙述が同じ箇所でも、そこから受け取った作品のメッセージは児童によって異なることが予想され、交流を行うことで考えの幅を広げる手立てとなると考えた。

7. 単元の指導と評価の計画

時	◆目標・学習内容	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準 <評価方法>
1	◆「たずねびと」を読み、学習計画を立てることができる。				
	・学習のゴールを提示し、作者にどのようなことを伝えるべきか考える。 ・学習の計画を立てる。 ・初発の感想を書く。			①	◎進んで学習計画を立て、学習の見通しをもって作品を読もうとしている。 <発言・記述>
2 3	◆「綾」の心情の変化を出来事ごとに追い、それぞれの場における「綾」の心情を考えることができる。				
	・登場人物を整理する。 ・出来事ごとに情景描写、心情描写をもとに「綾の心情」をまとめ、心情の変化を捉える。	①	①		◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 <発言・記述> ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 <発言・記述>

4	◆物語全体でどのようなことが描かれているのか想像し、交流することができる。		①		◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ＜発言・記述＞
5 本 時	◆「たずねびと」を読んで、作者から受け取ったメッセージを、根拠をもってまとめることができる。		②	②	◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。＜発言・記述＞ ◎粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。 ＜発言・記述＞
6	◆まとめたことを基に、作者に手紙を書くことができる。				
	・「作品から受け取ったメッセージ」と「考えたこと・これからの生き方」を中心として作者に対して手紙を書く。				

8. 本時の学習 (5/6)

(1) ねらい

・「たずねびと」を読み、作者から受け取ったメッセージを、根拠をもってまとめることができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動 ●予想される児童の考え	※指導上の留意点 ★評価 () 評価方法
2分	○前時の学習を振り返り、学習の目的を確認する。 ○本時のめあてを確認する。 作品を通して受け取った作者のメッセージをまとめ、伝え合おう。 ○学習の見通しをもつ。 ・個人で筆者から受け取ったメッセージをまとめる。 ・友達と交流して考えを広げたり深めたりする。 ・メッセージを基に、考えたことや自分のこれからの生き方についてまとめる。	※「何のために本時があるのか」を意識しながら学習に取り組めるように学習の価値を確認する。 ※本時の流れを全体で共有することで見通しをもった取り組みができるようにする。
35分	○「たずねびと」の全体像から、自分が作者から受け取ったメッセージをまとめる。 ●原爆・戦争の犠牲者たちを数や名前ではなく、かつて生きていた人間であることを理解しなければならない。 (根拠) 消えてしまった町、名前ではない人々、名前で	※児童の実態に応じた支援・準備を行う。 (自力でメッセージを書ける児童) →本文の叙述から根拠とする部分を

	<p>さえない人々、数でしかない人々。(P.126)</p> <p>●物語に触れ、広島に生きていた人たちの夢や希望を自分たちが受け取り、生きていてほしい。 (根拠)「この楠木アヤちゃんの夢やら希望やらが、あなたの夢や希望にもなって、かなうとええねえ。元気で長く生きて、幸せにおくらしなさいよ。」(P.125)</p> <p>●二度と同じことを繰り返してほしくない。かつての広島の記憶を昔のものにしてほしくない。 (根拠)「ここでどんなおそろしいことがあったかということ」をずっとわすれないでいたら、世界中のだれも、二度と同じようなめにあわないですむのかもしれない。(P.127)</p> <p>○まとめた内容を伝え合う。 ・黒板に掲示してある全文シートを活用し、自分の考えの根拠にした箇所に線を引き、その箇所に名前マグネットを貼る。</p> <p>○メッセージを基に、考えたことや自分のこれからの生き方についてまとめる。</p> <p>●いつか広島に行って、実際に「綾」が見たものを目の当たりにしたり、いった場所の空気を感じたりして自分の感覚を磨いていきたい。</p>	<p>複数選択できるように児童が書く内容を予想し、対応した叙述を検討しておく。 (根拠は見付けられるが言葉にできない児童) →「どのようなことを感じたのか」を聞き、言葉にしたことを基に書くよう助言する。 (メッセージ・根拠ともに考えをもてない児童) →印象に残っている場面、心に残っている場面を目を向けさせ、言語化することを支援する。</p> <p>★「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p> <p><発言・記述> ※全文シートに貼られている名前マグネットをもとに交流相手を探すよう促す。 ※机間指導を通して、「根拠とする叙述は同じだが受け取ったメッセージが異なること」や「自分とは異なるメッセージを受け取っていること」に気付くことができるようにする。</p> <p>※作品から受け取ったメッセージを受けて、これからの自分はどのようにしていきたいかを、作者に伝えることを念頭に置きながら、文章で表現できるようにする。</p> <p>★粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。 (発言・記述)</p>
8分	<p>○本時の学習を振り返る。 ・振り返りの観点「今日の学習で自分が得た学び」や「友達と交流したときに得た気付き」、「次時の学習で頑張りたいこと」について確認し、振り返りシートに記入する。</p> <p>○次時の見通しをもつ。 ・作者に手紙を書くことを伝える。</p>	<p>※次時の活動に見通しがもてるようにする。</p>